

平成25年度 森林総合研究所 北海道地域研究成果発表会

(報告)

日時：平成26年2月17日(月) 13時30分～16時00分

会場：男女共同参画センター 3階 ホール(札幌市中央区北3条西8丁目 エルプラザ内)

題名：「北の森の生きものと私たち」

発表1. 危険生物スズメバチの天敵ー女王バチを操る寄生線虫ー

発表者) 佐山 勝彦

発表2. 野生生物観測システムの確立へ向けてーこれまでの歩み、現状、そして課題ー

発表者) 平川 浩文

発表3. 北の森の希少樹種ー保全のための課題と対策ー

発表者) 金指 あや子

発表4. 連携・協力で希少植物を守るためにーレブンアツモリソウの事例ー

発表者) 八巻 一成

内容：

北の森の「生きもの」たち・・・スズメバチに寄生する線虫、野生生物、希少樹種、希少植物について研究成果の発表を行いました。

佐々木 産学官連携推進調整監の司会のもと、牧野 北海道支所長の開会あいさつで始まり、1 番目の発表では、スズメバチに寄生し不妊化させる線虫について、国内分布や寄主範囲、感染場所にたどり着く方法などの研究成果を紹介しました。

2 番目の発表では、自動撮影装置による野生生物の観測結果から見えてきたこと、このモニタリングから野生生物たちの分布や数の変化を知り、人間が与える影響の大きさなどの研究成果を紹介しました。

3 番目の発表では、人為的な要因により自生地が衰退し絶滅が危惧されている希少樹種について、次世代が健全な更新を行えるよう、自生地を持続的に保全するための対策や現状などの研究成果を紹介しました。

4 番目の発表では、礼文島のみに生息する希少植物：レブンアツモリソウを守るために、関係者の連携・協力という面から今後の保全活動のあり方について分析した研究成果を紹介しました。

最後に田中 地域研究監のあいさつをもって閉会しました。

当日は、暴風雪による悪天候にもかかわらず、道、道関係機関、森林管理局、北海道大学、一般企業、一般市民などの皆様にたくさんご来場いただきました。(受付数 104 名)



牧野 支所長あいさつ



会場内の様子



ポスター展示



発表 1 (佐山)



発表 2 (平川)



発表 3 (金指)



発表 4 (八巻)